

令和5年度 環境で地域を元気にする  
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

## 事業化支援合宿 活動紹介

活動団体名：箕川未来協議会

活動地域：滋賀県東近江市箕川町

活動におけるテーマ

『箕川町再興～人間らしい感動を味わえる里』

# 活動団体および活動地域の紹介

【名称】 箕川未来協議会    【設立】 2021年2月    【活動地域】 滋賀県東近江市箕川町

【目的】 本協議会は、地域にひとときの住人として滞在しながら、山の暮らしや文化を体験できる郷として箕川町を再生し、若者の地方回帰の促進、林業の振興などを通じて、未来につながる豊かな地域づくりを推進することを目的として設置する。



活動メンバー



山の暮らしの文化体験

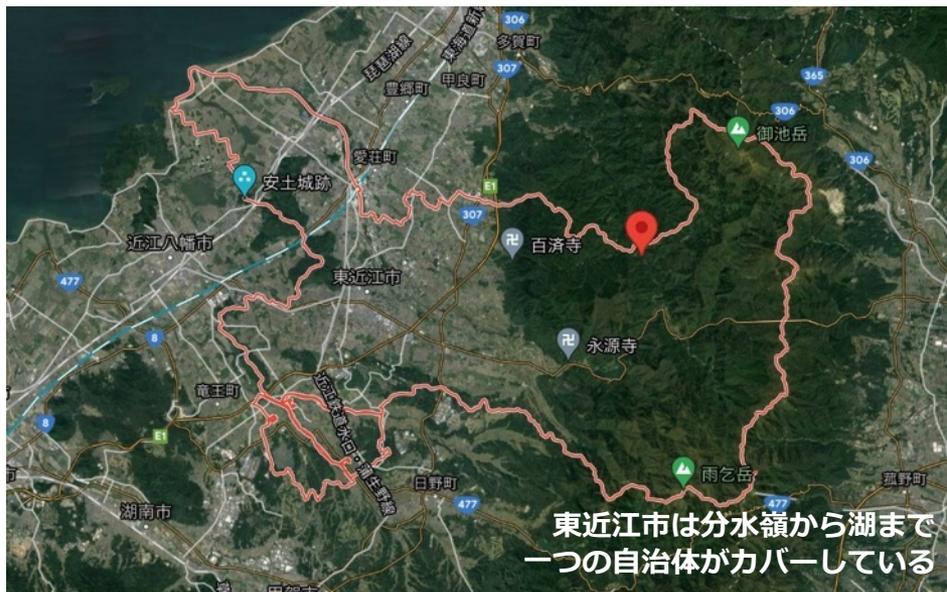


立ち上げのきっかけになった視察



事業予定エリア

# 活動団体および活動地域の紹介



# 活動をはじめたきっかけ

箕川未来協議会の結成は2021年2月であるが、そこにつながる地域事業者や活動があった。

箕川未来協議会の副代表の井上は、2015年10月に箕川に出会い、その雰囲気と景観にとっても惹きつけられた。そして、2016年6月から箕川町で事業を開始。

「森と人をつなぐかたち」をコンセプトに全国の地域産材を用いたオリジナルの木製玩具「クミノ」の製造・販売に取り組んでいる。



地域産材を使ったクミノは、様々な地域と出会い繋がっている

## 地域の方々と交流しながら



箕川で事業に取り組みながら、地域の方々と交流し、地域を未来につないで行ける可能性のあるアイデアを模索していた。

そんな中、東近江市が取り組む歴史的建造物を活用した観光事業の地域協議会に関わり、そこで本事業（地域循環共生圏）に出会った。そして活動の歯車が現実的に回りはじめた。

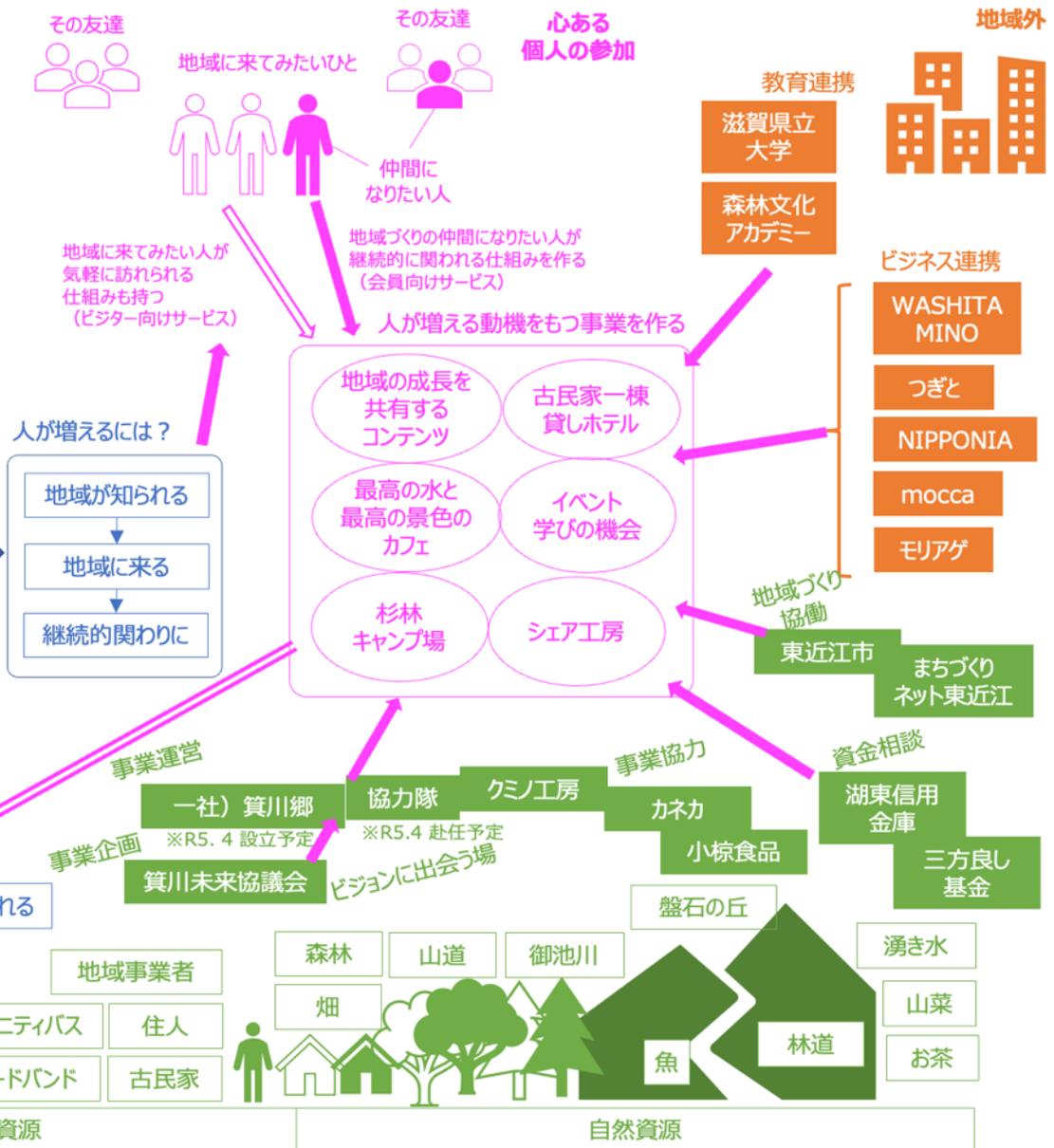
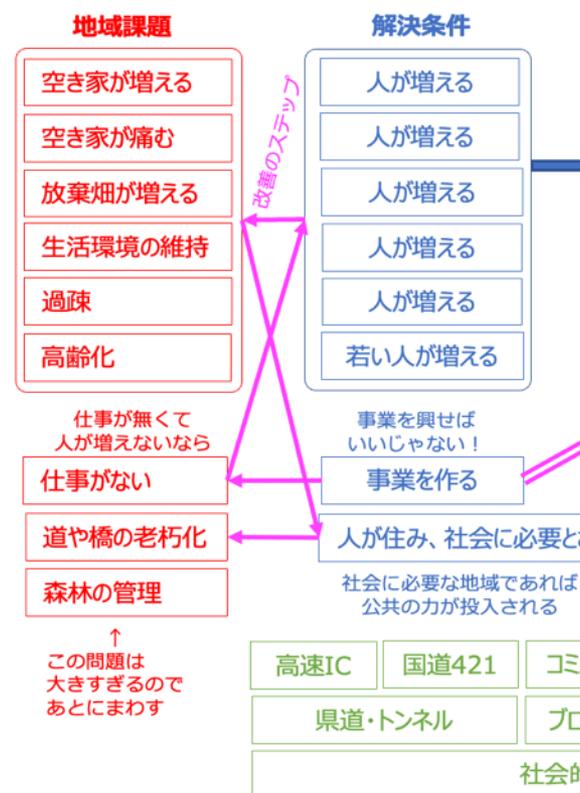
箕川の最大の資源は、環境（古民家・清流・森林）だと感じており、これらの資源を生かした事業～継続する社会との繋がり～を検討・試行している。

# 地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

活動中、ずっと見返しているのがビジョン！



事業の成立によって実現する

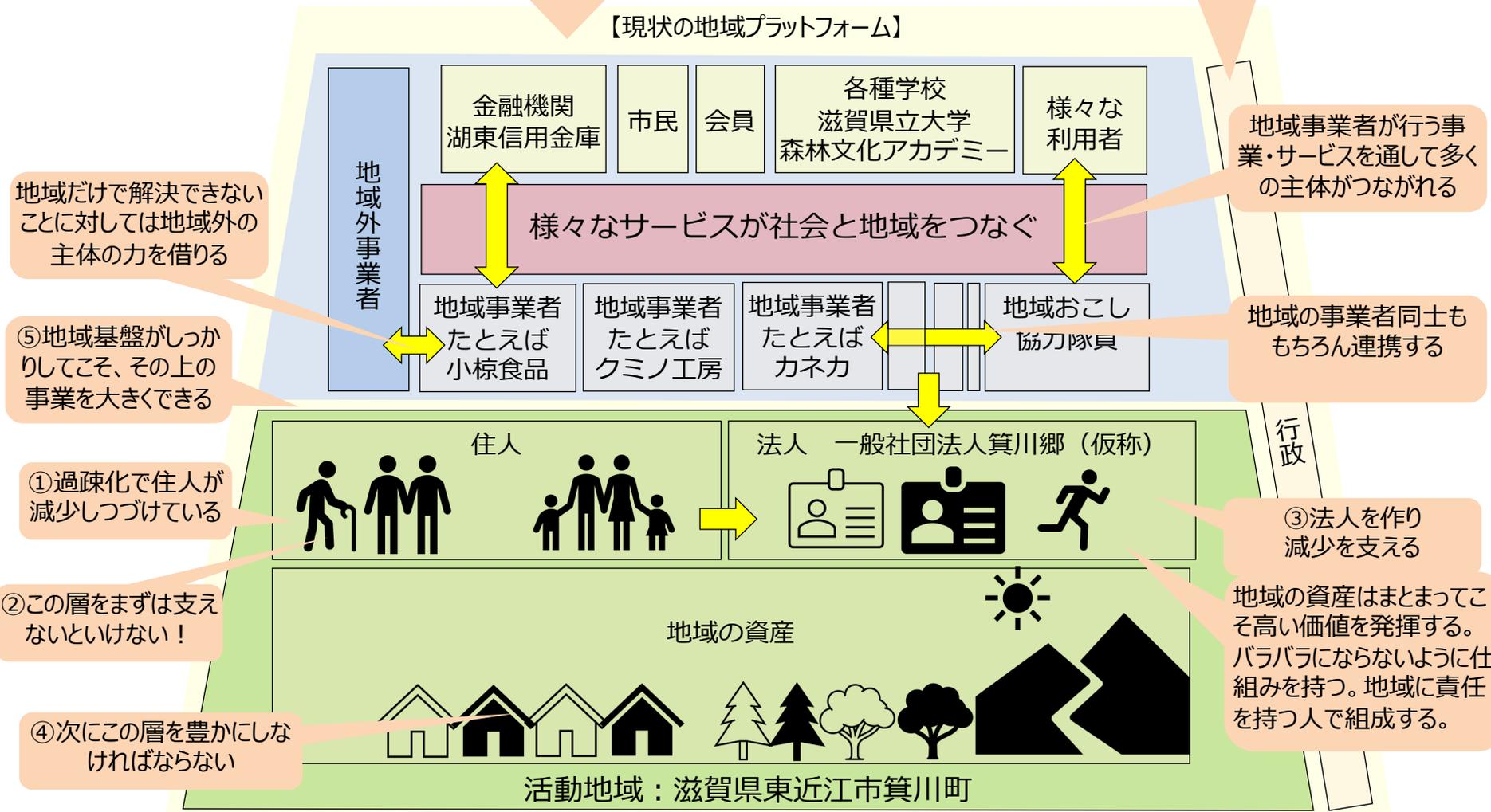


# 目指す地域プラットフォームの姿

自立した事業を考え続けて  
見えてきた構造

さまざまな主体が自立して取り組みを進めようとする時に行政は支えられる

【現状の地域プラットフォーム】



地域だけで解決できないことに対しては地域外の主体の力を借りる

⑤地域基盤がしっかりしてこそ、その上の事業を大きくできる

①過疎化で住人が減少しつづけている

②この層をまずは支えないといけない!

④次にこの層を豊かにしなければならない

地域事業者が行う事業・サービスを通して多くの主体がつながれる

地域の事業者同士もちろん連携する

③法人を作り減少を支える

地域の資産はまとめてこそ高い価値を発揮する。バラバラにならないように仕組みを持つ。地域に責任を持つ人で組成する。

# 取り組んでいる事業の目標・取組内容・課題

## 【1】ネットワークの強化と体制づくり

- これまでの活動で関わりのあった主体に改めてコンタクトし、ヒト・モノ・カネのチャネルを広げる
- 活動を伝えるパンフレットを作る・メディア(SNS等)を育てる
- プロジェクトのビジョンを明確化し、サブプロジェクトの粒度を見直し、新たな参加者を迎え入れる環境を作り、リーダーが育つ環境を作る

## 【2】事業の具体化

- 地域の遊休資産（空き家・空き地）を預かり運用する法人を設立する。
  - 地域づくりのビジョンを掲げ、賛同する会員同士で資産の貸し借りを成立させる。
  - 会員を募集し、いくつかのパイロット事業を行う
- 遊休資産を活用するための開発を行う。
  - シェアオフィス・シェア工房・キャンプ場・古民家の縁側など

## 【3】課題

- リーダー役も、実行役も、現状では人材が不足している
- 事業を現実に進めるためのタスク分解とスケジュール化
- 法人の制度設計、事業の設計